古民家調査実習 実 施 報 告 書

文責：阿部和建築文化研究所主幹研究員　安井妙子

１．古民家調査実習に至る背景と目的

この項は、（一社）秋田県建築士会大館・北秋田建築士会
松橋雅子氏の申入れ書を要約して転載

（一社）秋田県建築士会大館北秋田建築士会の中に、主に大館市周辺在住ヘリテージマネジャー数名で構成する「大館歴史的建造物研究会」の活動がある。数年前から大館市全域の建物調査を実施してきたが、調査手法をもっと専門的に学ぶ機会の必要性が喫緊の課題であると認識した。

1-1 実習実施に至る背景

上記建物調査の結果、大館市内には明治～大正～昭和の頃の建造物の存在を確認することができた。その多くが生活の場である故の老朽化、劣化が進み、いつ解体されてもおかしくない状況にある。加えて耐震性・断熱性に乏しいことにも、解体を助長する要因であるという危機感を持った。

古民家の所有者が再生改修や修理修景などの知識や技術のある専門家までたどり着くことは難しい。結果として解体されて今どきの住宅に建て替えられ、地域の風景さえも変わってしまう。現状では「大館歴史的建造物研究会」のヘリテージマネジャーがその相談を受けられる知識も技術も足りていない状況にある。

1-2 古民家調査実習の目的

1. 「大館歴史的建造物研究会」のヘリテージマネジャーが、「古民家」再生・改修における相談の窓口として市民に信頼される存在になる
2. 「古民家」の調査ができる
3. 高断熱・高気密・構造補強を伴う改修技術を習得し、改修設計及び監理ができる

2.阿部和建築文化研究所の対応

上記背景と目的を受けて、阿部和建築文化研究所は仙台市内に所在する「荒井家住宅」をお借りして 2 日間にわたる実習と講義を企画した。参加者は 4 名。宿泊費の個人負担が大きいので、安井妙子の自宅に宿泊することに決定。このことにより、座学は 1 日目の 0 時過

ぎまでスライドなどを使って長時間実施することになった。

実習は出来るだけ多くの経験を経ることが大切で、すぐには効果を期待できない。継続した勉強の機会を作ることを希望する。「語ろう学ぼう木の建築講座」には是非毎回参加してほしい。

一方で参加者の意識と知識レベルは高く評価でき、目的の達成は不可能ではないと信じることが出来た。

矢印の梁下端のハツリ状況から解った
天井高の秘密　　写真１

二間続きの荒井邸二階書院座敷　写真２

荒井邸は陸前高田に所在した明治初期の気仙大工の秀作を解体移築して高断熱高気密構造補強を伴い、建築建築基準法に準拠して確認申請提出の上新築した建造物である。安井妙子が設計監理を行い極めて忠実に復元することに努めた。施工は(株)阿部和工務店がおこなった。

荒井邸の 2 階には極めて美しい、完璧ともいえるプロポーションの座敷がある。設計にあたり一部廊下となる部分の天井を取り去ったので、小屋組を見ることができる。調査実習にはうってつけの家である。

一般的に天井廻り縁は造作材である。ところが荒井邸の２階の天井回り縁は構造材である梁の一部分を加工して、あたかも造作材として後で取り付けたかのように見せているものが１ヵ所ある。これは解体工事中に分かった。安井は実に高度な大工技術だとかねがね感心していた。

ここで奇跡的なことが起こった。大館のヘリテージマネージャーのお一人が 1 ヵ所ではなく全てであることを発見したのだ。設計監理者安井妙子の目は節穴だったことになる。写真１参照

でも、これで気仙大工の評価をより高める事実が引き出せることに気づいて嬉しくなった。詳細は別稿として考察をおこないたいと思う。このことからも目的の達成は不可能ではないと再確認。勉強会が継続的に実施されることを期待する。

参加講師　阿部和建築文化研究所主幹研究員 安井 妙子、 所長 中尾 七重

謝　　辞　2024 年４月 20～21 日の２日間にわたり、快くお住まいを開放してくださった荒井邦明、保子様ご夫妻に感謝いたします。　作成 2024 年６月 25 日